

来・ぶ ら り



《反省会雑誌》
明治19年龍谷大学の前身であった普通教授の教授や学生の間に展開した社会改良運動の機関誌で、明治32年「反省会雑誌」から現在の「中央公論」へと改題された。

書庫入室をめざして

繁田 實造

図書館書庫へ自由に入出入りしている学生を見るにつけ、自分の学生時代と比べ、今の学生は本当に幸せだなとつくづく思う。

わたしの学生時代は、開架方式なども及びもつかず、中央図書館のカードを繰って本を借り出すのがごく当たり前であった。大学院に進むと、書庫にまず入って本を手にとる必要を感じ、学部図書室書庫への入室について法学部図書委員の先生と交渉することとなった。図書の整理上、院生を書庫に入れるわけにはいかぬと入室を断わられてきたが、根気よい交渉の結果、入室が許された。そこで重複本の一部を院生研究室用に借り出す制度を認めてもらい、次いで資料室への入室も許されるようになった。しかし、資料室図書の借り出しは許されず、今日のようなコピー機器のない頃であったので、必然的に資料室を院生が占拠することとなり、一冊一週間の貸し出しが許されるようになった。新制大学院の発足時、研究者としていかに書庫や資料室に入り、先生と同様に図書・雑誌を利用させてもらうかに苦心した。これだけの成果を得るのに二年半程の年月を要した。図書館の図書を乱暴に扱う学生を見ると、館長でなくても、つい大声を出したくなる衝動にかられる今日この頃である。（図書館長）

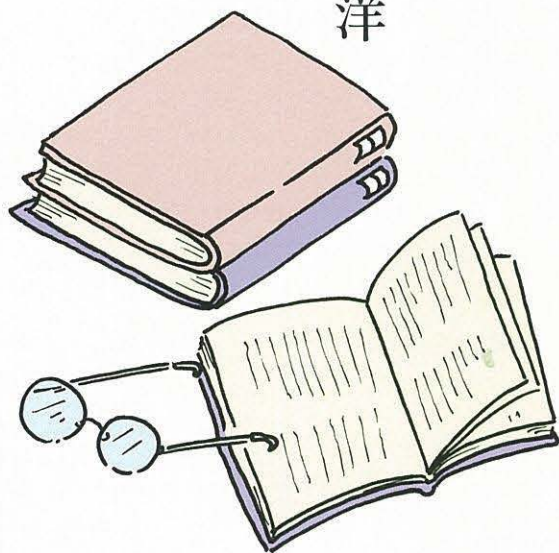
目次

書庫入室をめざして 図書館長 繁田 實造	1
図書館と大学での学修 法学部教授 見上 崇洋	2
雑誌について教えて!!	4
マルチメディアコーナー・AVホール いよいよオープン!!(瀬田図書館より)	6
平成七年度 卒業論文テーマベスト5(大宮図書館より)・ 日経ニュース・テレコンが利用できるようになります!(深草図書館より)	
私と図書館 二葉 晃文(国際文化学部助教授)・森山 浩江(法学部助教授)	8

図書館と 大学での学修

法学部教授
法学部長

見上
崇洋



安くはない授業料を有効に

自分の学生時代を振り返っても、図書館はほとんど記憶にない。記憶にないというのは責任を回避した言い方であって、実際にはほとんど行っていないのである。1回生の終わり頃から大学封鎖が始まりいわゆる大学紛争に入り、講義もなく試験も変則的だったので、という理由をまことしやかにあげることもできるが、それとともにというか、それよりもというか、マージャン・パチンコというカタカナが、図書館にでも使うべき時間をつぶす原因であった。この点、ゲーセン・カラオケと中身は変わるが、現在の学生の一部(?)と大差はなかったともいえる。要するに、学生時代の経験から、このテーマについて話す資格はあまりない。

ただ、ふとした出来心でというのが正確なように思うが大学院に進み、現職に就いているわけで、この間は図書館に大変お世話になった。そこで、私なりに図書館について述べてみたい。結論を先取りしてしまうと、図書館の利用の仕方が上手だと、同じ授業料で、図書館を利用しない人の2倍も3倍もの力をつけて卒業ができるのである。

大学でなにを学ぶ

大学での学修は、高校までのそれと違い、結論としての「正解」を性急に求めるものではない。「正解」がとりあえずは必要のないものも多い。そのため、大学とは視野を広げるためにある、といわれることが往々にしてある。このことは正しいと同時に正しくない。正しいとは、大学でいろいろなことにふれる

ことができるし、それ自体が結果的に大学で過ごしたことのメリットなのは確かであるから。正しくないというのは、視野が広くなるというだけのことなら、多様な経験を積む多くの人と知り合いになるといったことによってだけでも身につけることができることであり、これを大学に特有の意義とみることはできないからである。

大学の意義は、視野を広げることともに、奥行きを深くそれも正確にする方法を身につけることであろう。

眺・開・調・読・行

上に述べた点に関わって、まず、本のタイトルを眺めてみよう。図書館がいかにも可能性を秘めているかについては、本のタイトルを眺めるだけでも実に様々な未知の世界が存在すること、自分には関心のない事柄に格闘している人たちがいることを垣間見ることができることを以前にこの小冊子で述べたことがあるので、この点は繰り返さない。

眺めて、ふとなにかを感じたら開いてみればいい。目次をみてもなにもわからないかもしれない。語彙もまったくおなじみでないかもしれない。それだけで閉じても無駄ではない。そういった語にどこかで出くわすかもしれないからだ。そのまま、読んでみるのもいい。1頁も続かなくても良いだろう。なにかを調べるために該当箇所だけで探すということもある。

図書は読むためのものと考えてのが普通であろうが、このように、タイトルを眺める、あるいは、自分の知らない世界が実に多いと感じるだけでも、意味があるといってよい。だから、図書館に行ってみるといのが、な

によりも必要なことなのだ。自分の学生時代のことを棚に上げて、この点を強調したい。

奥を深く…

学生諸君は、各学部にも所属し、ゼミをとり、専門というより狭い分野について、知識をまとめて身につけていくのであるから、当然奥深くなる。その深め方は、テキストを読み報告のために資料や他の文献を調べ、教員の説明を聞き、といったことによるものであろう。これを基本パターン、いわば骨組みとすると、大学側から提供できるのは、この基本パターンに止まるのである。このことを、しっかりと認識しておかなければならない。説明やテキストの詳しきの程度の違いはあっても、この点では変わらない。

道路を1本通すとき、誰が言い出すことができるのか？、誰がつくるのか？、道路がかかる土地所有者の意見は？、道路を利用したいだけの者の立場は？、道路ができることによる地域経済への影響、高速道路のような現地の利用よりもより広域の利用の問題、建設に伴う住環境への影響や自然環境の破壊等々、実に多様な問題が生じる。これらに止まらず、地域社会の変化、建設をめぐる住民の中での対立、子供の行動の変化等々の問題も生じうる。法律学、社会学、教育学等、それぞれのパターンで諸問題の切り口をみせるが、大学の授業ではそこまでである。

図書館は、これらの切り口に沿って課題を肉付けする手段を与えてくれるとともに、自ら、それ以上に深める可能性を開いているのである。

雑誌について 教えて！

●『雑誌』ってなに？

『同じ誌名で、定期的に刊行され、順番に巻号がふられていて、1冊の中に複数の記事や論文などが編集されている資料』を一般的に“雑誌”と呼んでいます。雑誌は、週刊誌、月刊誌、季刊誌、年刊誌など、刊行頻度が決められていますので、定期刊行物とも呼ばれます。

雑誌には、書店で一般に購入することができる商業（娯楽）雑誌、学会・協会で会員向けに発行され、学術研究成果の発表の場とされている学術雑誌などがあります。

いずれもその分野の最新の記事、論文、ニュースなどが掲載され、新しい情報を得るためには必須の情報源です。※1

図書館では、新着雑誌を雑誌架に配架し、欠号があればバックナンバー（以前に刊行された古い雑誌の号）の収集に努めます。保存が決まっている学術雑誌の場合、一定期間が経過すると一定の区切り（巻、年等）で、合冊製本（堅固な装丁にし直す）され、再び配架されます。

●『二次資料』ってなに？

雑誌文献が増大し、必要な文献を探す道具として索引誌^{☆1}が世に出され、また標題のみでは内容評価が困難なため、短文の著作の内容説明を加えた抄録誌^{☆2}が作られました。

雑誌文献がオリジナルな情報を伝えるのに対して、索引・抄録誌は文献の有無を確認するのにとどまります。この役割の相違を区別して、前者を一次資料、後者を二次資料と呼んでいます。※2

二次資料等は、館内の「参考図書コーナー」にあります。

例）『龍谷大学雑誌総合目録』、『学術雑誌総合目録』、『雑誌新聞総かたろぐ』、『雑誌記事索引』など

雑誌には通常複数の論文記事が収載されており、そのため、オリジナル情報を有する一次資料も貸出しは行っていません。必要な部分は、著作権法に触れない範囲でコピー（一部分）して利用して下さい。

☆1 索引誌とは…雑誌論文などを探するために、定期的に刊行される索引。著者、タイトル、事項などから、該当する論文記事を探し出すことができます。

☆2 抄録誌とは…ある分野の雑誌論文などの書誌^{☆3}事項と抄録を、一定の規則で配列した資料で、著者、タイトル、事項などから探すことができます。

☆3 書誌とは…ある著者や主題などに関係する資料のリスト。資料の所在までは記載されません。

●『雑誌』を探そう！

ISSNとは、International Standard Serial Number（国際標準逐次刊行物番号）の略称で、雑誌のタイトルがわからなくても、雑誌に記載のISSNがわかれば、本学図書館蔵書検索システムを使って（検索語として8桁の数字を入力）、求める雑誌の所蔵を確認することができます。もちろん、タイトルだけでも学内の所蔵検索はできます。

コンピュータ検索法は『RYUKOKU LIBRARY GUIDE』に詳しく載っています。

●『龍谷大学にない雑誌』をどうしても探したい！

特定の記事を収載している雑誌名、巻号がわかったら、次にその雑誌が何処にあるかを確かめましょう。

万一、本学図書館で所蔵していなくても、あるいは欠号であっても、そこであきらめないで、次の総合目録を調べてみましょう。たいいていの場合、他館での所蔵状況を知ることができます。

『学術雑誌総合目録 和文編』

東京 学術情報センター編

『学術雑誌総合目録 欧文編』

東京 学術情報センター編

この目録には国・公・私立の大学図書館、各省庁所轄研究機関、民間の研究機関などに所蔵されている関係分野の雑誌を誌名の50音順またはABC順に配列し、各所蔵を記しています。

所蔵さえわかれば、有料（1枚→約40円）で、他館へ複写依頼することができます。必要とあれば他館入館のための紹介状を発行することもできます。

これだけ調べても、貴方の目指す論文や記事がうまく見つからない場合、困った時こそ、図書館員に相談して下さい。きっと貴方の望みを叶えます。

●それでも探せない貴方のために!!

(情報検索サービス)

雑誌のタイトルや発行年がわからなくても、貴方の研究テーマに合致した文献を次のようなデータベースを検索することによって、探し出すことが可能です。現時点では、利用料金は大学が負担するため無料です。

●NACSIS-IR 文部省学術情報センター

学術研究情報を迅速かつ的確に研究者に提供することを目的として、人文、社会、自然科学の分野にわたって学術情報を蓄積しています。大学図書館を中心とした図書、学術雑誌の所蔵情報など44種を超えるデータベースファイルを持ちます。(大宮・深草・瀬田図書館にて検索可能)

●JICST 日本科学技術情報センター

国内外の主要な科学技術文献を日本語の抄録付で紹介する、『科学技術文献速報』をデータベース化したものです。雑誌論文だけではなく、研究報告書、会議資料などの論文も含まれています。(瀬田図書館にて検索可能)

●どんな学術雑誌があるの?

卒業論文やレポート作成等、学習・研究を進めていく上で、役立つと思われる学術雑誌を例示しますので参考にして下さい。

(文学関係)

〈真宗学科〉 真宗学・真宗研究・宗学院論輯・龍谷教学・大谷学报

〈仏教学科〉 印度学仏教学研究・仏教学・仏教文化研究所紀要・仏教芸術・南都仏教

〈哲学科〉 宗教研究・理想・哲学研究・哲学雑誌・国学院雑誌

〈史学科〉 東方学报・史林・東洋史研究・歴史学研究・龍谷史壇

〈日本語日本文学科〉 国文学解釈と鑑賞・文学・国語国文・国文学解釈と教材の研究・国語と文学

〈英語英米文学科〉 英語青年・英語英米文学研究・時事英語研究

(経済学関係)

東洋経済・エコノミスト・ダイヤモンド・経済セミナー・世界経済評論

(経営学関係)

会計・会計人コース・税経セミナー・税経通信・日経ビジネス

(法学関係)

法学セミナー・法学教室・ジュリスト・判例時報・判例タイムズ

(介護関係)

生き生きジャーナル・おはよう21・ふれあいケア・看護教育・やさしい子

(理工学関係)

〈数理情報学科〉 C MAGAZINE・人工知能学会誌・Byte・コンピュータソフトウェア

〈電子情報学科〉 Journal of crystal growth・Journal of applied physics・応用物理

〈機械システム工学科〉 日本機械学会誌(A編)・三菱重工技報・日本金属学会会報・日本航空宇宙学会誌・日本ロボット学会誌

〈物質化学科〉 化学と工業・Journal of the American Ceramic Society・材料・公害と対策

(社会学関係)

〈社会学科〉 厚生保護・現代のエスプリ・人口問題研究・家庭社会学研究・都市問題

〈社会福祉学科〉 視覚障害・月刊福祉・障害者問題研究・ボランティア・現代のエスプリ

●学術雑誌って何処にあるの?

3館別に配架場所を紹介します。

＜深草図書館＞

○新着雑誌(利用率の高いバックナンバー含む)
→新館2階 雑誌コーナー

○バックナンバー→閉架書庫(閉架書庫にあるバックナンバーについては係に相談して下さい。)

○より専門的な和洋雑誌および各大学発行の研究紀要の新刊→紫英館2階社会科学研究所

＜大宮図書館＞

○新着雑誌

△研究室雑誌→各合同研究室

△図書館雑誌→雑誌係カウンター内

※閲覧希望の場合はいずれもカウンターへ申込み下さい。

○バックナンバー→開架書庫の1階(図書館雑誌)と2階(研究室雑誌)に配架されています。

＜瀬田図書館＞

○新着雑誌→新館地下1階

○バックナンバー→新館地下2階

わからないことがあれば、遠慮せず図書館員にたずねて下さい。

では、皆さんの来館をお待ちしています。

マルチメディアコーナー ・AVホール いよいよオープン!! (瀬田図書館より)

平成8年4月、図書館新館がオープンしました。本館同様、皆様のご利用をお待ちしております。

さて、新館のセールスポイントは数多くありますが、マルチメディアコーナー・AVホールの新設が一番のセールスポイントです。従来のAVルームは、図書館所蔵のビデオ等が視聴できるモニターが9台のみ、最大でも19名しか収容できなかったため、昼休み時間や雨天時にはご利用いただけないことがあり、皆様には大変不便をおかけしました。

しかし、もう安心。新館には従来の機器に加えて、AVCブース・AVホールを新設いたしました。

お誘い合わせのうえ、是非ご利用下さい。

新館地下1階

★マルチメディアコーナー★【新設】 (AVC端末(30台)+Macintosh(5台))

- AVC端末は、利用者が画面の指示に従い操作するだけで、インストール済の学習用（語学関係、物理実験等）ビデオ等を視聴（CD・ROMも可）できます。
- VOD（ビデオ・オン・デマンド）によりリアルタイムで最大20名（MPEG2の時）が同時視聴できます。利用手続は不要です。
- 6名までのグループが同一タイトルを視聴することも可能です。利用者は、ヘッドホンセット（赤外線通信）により館員と会話できます。また、AVC端末30台は、PC（COS-V機）として学習（文書作成・表計算等）に利用可能です。Macintoshも学習用として利用可能です。
- 学習以外の利用やプログラム改ざんは厳禁します。不正使用が目にする場合は、利用に制限が加えられる場合があります。機器は大切に扱いましょう。

新館2階

★AVホール★【新設】（総座席数50席）

- 100インチ大画面を見ながら、ワイヤレスヘッドホン（赤外線使用）で音声を受信します。
- 図書館作成の上映スケジュール（館内掲示予定）



ブース端末の
動画再生時の
GUIイメージ

▲番組案内と 再生画面

ジャンルの選択と 番組リストの表示



にもとづき、ビデオ、LD等の上映を行います。

予約により、授業での利用も可能です。

- 視聴希望者は、1階カウンターへお越し下さい。学生証と引換に専用ヘッドホンを貸出します。

【用語説明】

MPEG…画像圧縮伸長の国際標準技術を意味する。
VOD…VTR資料等をデジタル化して蓄積し利用者側のモニターへサーバー機を通じて画像を送ります（Video On Demandの略）
赤外線ヘッドホンシステム…赤外線で音声飛ばし、コードレスヘッドホンにより、利用者側と機器管理者側で会話可能なシステムです。

平成七年度 文学部

卒業論文テーマ ベスト5 (大宮図書館より)

《真宗学科》

1. 親鸞聖人とその教義に関するもの
2. 現代教学（生命倫理、カウンセリングなど）
3. 教学史（覚如、存覚、蓮如とそれ以降の宗主について）
4. 教理史（七祖関係）
5. その他（伝記、伝道、妙好人など）

《仏教学科》

1. 浄土教・日蓮宗・密教などの宗派・伝記・著作に関するもの
2. 仏教芸術（考古・仏像・法具・儀礼・音楽など）
3. インド・中国の仏教・哲学・思想・制度・人物に関するもの

4. 仏教教育・医療・倫理など
5. 仏教思想（如来思想・地獄思想など）に関するもの

《哲 学 科》

哲学専攻

1. 人生感，世界感，心理，社会，家族など
2. 生命，倫理，道徳，教育に関するもの
3. 西洋哲学 4. 宗教哲学
5. 東洋哲学

教育学専攻

1. 教育心理学 2. 教育社会学
3. 教育哲学 4. 教育方法論

《史 学 科》

国史学専攻

1. 大和時代～平安時代に関するもの
2. 江戸時代に関するもの
3. 明治以降に関するもの
4. 鎌倉時代～桃山時代に関するもの
5. 考古学に関するもの

仏教史学

1. 日本仏教史（古代・中世）
聖徳太子，行基，最澄，空海，栄西など
2. 真宗史（石山合戦，安土・桃山時代のもの）
3. インド・中国の仏教史に関するもの
4. 仏教美術に関するもの
5. 一向一揆研究

東洋史学専攻

1. 東洋史一般研究
2. 社会・経済史・法制史
3. 東洋思想・宗教・文化など
4. 東洋人物研究
5. 史料・文書研究

《日本語日本文学科》

1. 近世・近代の小説と作家論
2. 国語・言語学・文法などに関するもの
3. 古代・中世の小説，随筆，日記（平家物語，源氏物語，伊勢物語，徒然草，土佐日記など）
4. 詩歌（家集，歌人伝，俳諧，連歌など）
5. 情報・出版に関するもの

《英語英米文学科》

1. アメリカ文学（作品論，作家論）
2. 英米文化（人種問題，戦争問題など）
3. イギリス文学（作品論，作家論）
4. 英語学
5. その他

以上、平成7年度文学部卒業論文テーマのベスト5をあげてみました。参考にして下さい。なお過去の卒業論文テーマ一覧は毎年発行される「龍大論集」の春号（6月頃）に掲載されています。

日経ニュース・テレコンが 利用できるようになります （深草図書館より）

平成8年4月より深草図書館新館2階カウンターにて、日経ニューステレコンが利用できるようになります。これにより、最新の新聞記事情報・企業情報をリアルタイムに入手することができます。

＜新聞記事検索＞

日経をはじめ28紙にのぼる全国・地方・業界紙を収録。必要な新聞記事を見たい時にすばやく検索できます。

日経4紙・朝日・毎日・読売・産経・西日本・中日・北海道・河北新報

科学工業日報・日刊工業新聞・日本食料新聞・英文12紙も収録

＜人 事 ・ 企 業＞

日経Who's Who・日経プロフィール・東京商工リサーチ・帝国データバンク・海外企業情報

＜新 製 品＞

きょうの新製品・新製品プロフィール・売れ筋商品ランキング



NIKKEI 日経テレコンピューティング
TELECOM

私と図書館

——多様化する図書館——

二葉 晃文

大学入学まで図書館の施設を余り利用せずに過ごした私は留学先のアメリカの大学で図書館の機能の多様性を知り、自ら求めさえすれば限りなく広がる可能性を持つ読書の世界に目を開かれた思いがした。

コンピューターを使って検索するとその図書館にある書籍・雑誌名はもちろん、雑誌・新聞の記事、音楽・芸術作品の内容、さらに世界各国の図書館の英語表題がついている文書（ローマ字表記された日本の文書を含む）がどの国のどの図書館所蔵であるかまで教えてくれる。さらにインターネットを通じては他の図書館の図書貸出請求まで出来るのである。図書館の一台のコンピューターを窓口にして、居ながらにして世界各国の図書館を利用でき有る現実にある種のショックを伴う快感がした。

以前、書籍との付き合いでは大先輩である父に最近の図書館の多機能性を話したら、どんな書籍を入手しても既存の理論にとらわれずその主題をつかむ必要性と、またどのような学問を探究しようともその結果が他の人々の自由と尊厳を守るものでなければならぬということを諭された。またその態度を生涯身をもって示してくれた父の姿勢を忘れることなく、今後益々多様化するであろう図書館を上手に利用して自らの学問を深めてゆきたいと思う。

（国際文化学部助教授）

——「カタチ」の効能——

森山 浩江

カタチではない、大切なのはナカミだ。一何の話にしても、これはまず正論であろう。しかし哀しいかな、人間はカタチに影響される生き物である。

一回生のゼミで「結婚という制度はなぜ必要か？」という議論をしたことがある。子どものため？それならば子どものいない夫婦には結婚は必要ないのか。相続のため？遺言を遺しておけばいいではないか。婚姻届という紙切れがあるのとないのとで、いったい何が違うのか？いろいろ考えてみると、「結婚」は、弱い人間をつなぎ止める「カタチ」なのかもしれない。そういう意見も出てきた。

それが図書館と何の関係があるのか？と思われる向きは、例えば、急に予定が変わって自由になった2時間を家で過ごす場合と図書館で過ごすのとでどう違って来るか、考えてみて頂きたい。たとえば家でレポートの課題書を読もうと思ったとしても、実際には…そう、自由とは強靱な精神を要求するものなのである。だから、己れの弱さを知る者はカタチの効能を利用する。

カタチから入るものなんて情けない？ごもっとも。しかし、カタチにすぎないと知りつつカタチを利用するのは、一つの知恵である。そこで、新入生の皆さんに一言。大学では束縛も少ないが、追いかけてまで指導してくれる人もいない。これでいいんだろうか、と不安になったら、図書館の椅子にすわって「カタチ」を試してみてはいかが？

（法学部助教授）

龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第14号

1996年4月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-642-1111(大代)